



ミシュカの森は今年で10回目を迎えました

「私は世田谷事件の遺族です」このたった一言を話すのに、6年の歳月がかかってしまいました。事件遺族であるというアイデンティティを自ら明らかにするのは難しかったのは・・・第一発見者となってしまった母に禁じられたためです。

事件当時71歳の母は、再愛の孫を含む娘一家の亡骸をその手で抱き、その目で見るといふ重荷を負わされてしまいました。最晩年の2年は目の光を失いながら、事件後、11年間を生きなければならなかった母。その心の苦しみと痛みは、涙を伴う悲しみとなって表れることは死ぬまでありませんでした。本当に悲しい人は涙も出ない・・・私はそう感じています。激しい悲しみは、時に否認、忘却、操作に向かう、と言われます。でも私には、母が悲しみというより、ただ恐れに囚われているように見えました。母がなにより恐れたのは「事件との関わりを世間に知られること」です。

昭和初年生まれ之母は、殺人事件で家族を殺され、生き遺ったとしても、偏見やスティグマにさらされ、世間からつまはじきにされてしまうだろう、とそれを一番思い煩っていたように見えました。未解決事件の遺族として、自ら先頭に立ち、チラシを配ったり、事件解決を呼びかける、という選択もある中で、母は私に強く「沈黙」を強いたのです。世の中は決して甘いものではない。世間は口さがないものだ。こんな事件に巻き込まれて、世間に対して顔を晒して何か訴えたりすれば、必ず、事件で受けたこれ以上もない苦しみはいや増し、広がり、もう二度と立ち直れなくなる。具体的には、遺族となった私たちが住む場所を追われる、仕事がなくなる、こどもが学校でいじめられる、就職・結婚の道が閉ざされる・・・母の強い懸念を前にすると、私は沈黙せざるを得ませんでした。大変な心の痛手を負っている母に逆らって母の心身をこれ以上乱したくなかったこともありましたが、未解決事件の遺族という立場にあると、捜査権を持つ警察が私たちに沈黙を望んでいることを肌で感じました。選択に際し、私はダブルスタンダードに慣れていたので、当時は母の意向に沿い、沈黙を選びました。母の思い遣いはあながち杞憂とだけは言えませんでした。15年を経て今もなお、くだらないテレビ番組に、娯楽として消費される未解決事件の遺族であることを放送倫理委員会（BPO）への申し立てを通して思い知らされたのですから。それでも、母からの禁止に対して、心の中に熾火のように消えなかった想いは、何の落ち度もなく、ましてや、6歳と8歳という無垢のまま、逝った幼い姪甥に対して、「どれほど短くてもその一生が完きものだったのだ」・・・その想いを伝えるのは、遺されたものの役目ではないか？ということなのです。

私の「想ひ」の小さな火は2006年12月、亡き妹一家の生を辿るささやかなお話会という形で顕れました。場所は信濃町駅至近の真生会館です。はじめて事件の体験を心開いてお話をしました。「ミシュカの森」の原型プロトタイプの集いの誕生と言えるでしょう。自己開示の原動力となったのが、一方で、亡夫と、高校生だった息子の後押しや、長島正先生の講座でご縁を得たベグライテンの方々のお力添えだとするなら、他方で、母からの精神的離別への志向だったことを、時間を経て私は強く意識するようになりました。パラドキシカルな意味で、母によってこそ今があると言えるでしょう。

悲しみへの否認を、母の世代の特徴や母個人の気質だけに帰するわけにはいかないことを、最近もまざまざと感じる機会がありました。先日、東大のシンポジウムに参加した時のこと。当事者研究に携わる若手研究者の方が、ご自身のトラウマ体験への向き合いをこう表現されていたのです。「受け取る名づけから生み出す名づけへ」受動から能動に転換される時の葛藤を彼女は如実に伝えていました。ある意味で頑なに自分のトラウマ体験を「ロマン化」も「スティグマ化」もしない、と決めてしまったがために、いかに彼女が過去現在未来に対する見通しを失い、立ち往生したか、を語ったのです。勿論、それだけでなく、そこから解凍されて拓かれる新たな障がいと関わるアートの地平への語りは、清冽な泉が湧き出るようでした。「障害当事者」の表現が頑張る姿として一方的に消費されたり、悲劇の記号として利用されることへのNOを示すその姿は、たおやかにも毅然としていました。聴きながら、ひとはどうしても自分の体験を自分なりの物語に落とし込まなければ生きていけない・・・今更のように、妹の事件への私の語りには、沈黙のまま逝った母への思いが底流にあったのだと、気づかされたのです。

「ミシュカの森」誕生から10年になる今年、タイトルを「コトバの力～沈黙を強いるメカニズムに抗して～」としたのは、私にとって母から強いられた沈黙の重さを噛み締めてのことです。沈黙を強えられる時、或いは沈黙を選択せざるを得ない時、悲しみを被った人たちは必ず被害性からの自己疎外に陥ってしまう。自分で自分の感情や、大切なものを否定しなければならないのです。母は涙が出ない、会いたい娘や孫たちに夢で会うこともできない、夢も見ないから・・・と嘆いていました。母は自らの感情を封印してしまっただけです。私にはそう見えたのです。

母の苦しみを目の当たりにし、看取ることで、私は「苦しむ人と共に歩み、しかも絶望しないで歩む」為には「沈黙を強いるメカニズム」の正体を探らなければならない、と気づかされました。何を憚って、自分の悲しみや怒りを否定しなくてはならないのか？何を恐れて、苦しみや悲しみをなかつたことにしなくてはならないのか？負の感情の表出に使われがちな「バイティング・ラングエージ=噛み付き言語」は、共感を伴わないとされます。噛み付き言語に人は耳を塞ぐ、と。そうでしょうか？それでは、どんな言葉なら人の心に届くのでしょうか？耳障りのよい言葉なら人の胸に響くのでしょうか？

10年目の今年、ゲストにお迎えする星野智幸さんは、文学（音楽も然り）が政治を排除してしまったために、言葉の持つ差別性、権力性を批判するという文学本来の役割を放棄してしまった、と文学の責任を指摘されています。本来、無意識の領域に働きかけて、私たちを支配し縛っている制御を解除し、ものの見方を深いレベルで変えるのが「文学」の力であるはず。「文学」が、政治や社会との回路を遮断してしまったために、言葉が言葉本来の力を奪われつつある。故に跋扈する暴力的言葉の前に立ち竦む事態を招いてしまったのでは？という星野さんの問いかけを、私は母のかなしみに思いを馳せつつ受け止め、今年のメインゲストにお招きしました。ぜひ「ミシュカの森」にお越し下さい。（入江杏）

樋口陽一先生講演会(公共哲学を学ぶ会)のご案内

いま「国民」の「主権は」？

～エリートを拒否する「国民」？「強い権力」を求める「国民」？そして日本は？～

【日時】11月12日(土) 15:00~17:00

【場所】上智大学 12号館 3F 302 教室

千代田区紀尾井町7-1 (JR 中央線・東京メトロ丸の内線/南北線四ツ谷駅麴町口・赤坂口から徒歩7分)

【参加費】千円（学生／生保・障害者 500円） ☆どなたでも参加できます。事前申込は、不要です。

☆終了後、講師を囲んで懇親会を予定しています。各自が飲食された分をお支払いいただきます。

【講師】樋口 陽一 さん（東京大学名誉教授、上智大学元教員、法学博士(憲法学)）

【略歴】1934年生まれ、東北大学、東京大学、上智大学、早稲田大学、パリ大学で教授、特任教授、客員教授を務め、国際憲法学会などの学会の名誉会長。

最近の一般人向けの本として「日本国憲法」～まっとうに議論するために～(改定新版 2015 みすず書房) など多数

【講師から一言】「国民」が「主権」者だということは、どういうことなのでしょう。どうみるべきなのでしょう。私の話の当日に、トランプ大統領が実現している可能性は決してないわけではない。イギリスの国民投票は予想に反してEU離脱を決めた。ハンガリーのオルバン政権やトルコのエルドガン政権の強権発動は、国民に支持されている。何よりプーチン政権は圧倒的に国民の人気を集めている。そして、日本は？……みなさんと一緒に考えてみたい。

【主催】ベグライテン HP <http://begleiten.org/> FB <https://www.facebook.com/begleiten2/>

ミシュカの森 FB <https://www.facebook.com/mforest>

【共催】上智大学哲学科 【問合せ】090-9146-6667(関根) ・ ANA71805@nifty.com(入江)

公共哲学を学ぶ会

市民の力はどこへ向かうのか・・・市民連合、野党共闘、リデモスを語る・・・

対談 中野晃一さん×奥田愛基さん

★中野晃一さん（上智大学国際教養学部教授）

1970年、東京生まれ。立憲デモクラシーの会・安保法制の廃止と立憲主義の回復を求める市民連合の呼びかけ人。ReDEMOS 理事。主著に「つながり、変える 私たちの立憲政治」「右傾化する日本政治」「戦後日本の国家保守主義—内務・自治官僚の軌跡」

★奥田愛基さん（ReDEMOS 代表理事。都内大学院生）

1992年福岡県北九州生まれ。中学生時代を鳩間島で過ごす。島根県の山奥にある全寮制の高校を経て、明治学院大学国際学部を卒業。現在都内大学院生。元 SEALDs 中心メンバー。

主著に『民主主義は止まらない』河出書房、『変える』河出書房

昨夏、違憲の安保法制強行に対する国会前抗議に結集した市民運動は、今年、野党共闘を後押しし、参議院選挙に挑みました。勝ち取った成果が少なくない一方、多くの課題もまた残っています。そしてさらに東京都知事選、新潟県知事選、そして二つの補選を経る過程で、さまざまな方面から野党共闘に対する疑義や批判も噴出しました。

衆議院の解散総選挙や改憲論議の行く末をにらみつつ、私たち市民はいかにして政党政治にはたらきかけ、また選挙のあり方を変えていくことができるのか、率直な議論を交わす機会としたいと思います。あわせて、市民のためのシンクタンクを志す「リデモス」の取り組みについてご紹介することを通じて直近の政局の先にある日本社会の未来に思いを馳せたいと考えます。

【日時】2016年11月20日(日) 16:30~19:00 【参加費】千円（学生／生保・障害者 500円）

【会場】上智大学 中央図書館 9F 911 会議室 〒102-8554 千代田区紀尾井町7-1

(JR 中央線・東京メトロ丸の内線/南北線四ツ谷駅 麴町口・赤坂口から徒歩7分)

http://www.sophia.ac.jp/jpn/info/access/accessguide/access_yotsuya

【申込方法】氏名を明記し、11.20 対談参加希望と書いて、前日までに、メールで info@begleiten.org から、お申込みください。特に返信しませんが、定員を超えた場合は、その旨ご連絡します。当日図書館入り口で作成された名簿にチェックを入れてご入館ください。**事前に申し込みをしないと、入館できません。**

【主催】ベグライテン HP <http://begleiten.org/> FB <https://www.facebook.com/begleiten2/>

ミシュカの森 FB <https://www.facebook.com/mforest>

【共催】上智大学哲学科 【問合せ】090-9146-6667(関根) ・ ANA71805@nifty.com(入江)

「ミシュカの森 2016」のお誘い 星野智幸さん（作家）をお迎えして

コトバの力～沈黙を強いるメカニズムに抗して

【日時】2016年12月25日(日) 14:00～16:30

【場所】上智大学 四谷校舎 2号館 4F 402 教室

千代田区紀尾井町7-1 (JR 中央線・東京メトロ丸の内線/南北線四ツ谷駅 麴町口・赤坂口から徒歩7分)

【参加費】1,000 円 (税込)

【定員】180名 ☆どなたでも参加できます。事前申込不要。

【講師】星野智幸さん（作家）【講演タイトル】コトバの力～沈黙を強いるメカニズムに抗して～

【講師略歴】星野智幸（ほしの・ともゆき）

1965年米国ロサンゼルス生まれ。早稲田大学第一文学部卒業後、2年半の新聞記者勤めを経て、2年のメキシコ留学。1997年、『最後の吐息』で文藝賞を受賞してデビュー。2000年『目覚めよと人魚は歌う』で三島由紀夫賞、2003年『ファンタジスタ』で野間文芸新人賞、2011年『俺俺』で大江健三郎賞、2014年『夜は終わらない』で読売文学賞を受賞。最新作は『呪文』。4巻本の自選作品集『星野智幸コレクション』を刊行中。路上文学賞を主催。

【主宰からの言葉】「ミシュカの森」は、2000年末に、幼い姪と甥を含む妹一家4人が突然命を奪われた「世田谷事件」追悼の集いです。岩波書店から「悲しみを生きる力に」という本を出版して以来、同じタイトルで、講演を続け、悲しみに寄り添い、ともに生きる「グリーンケア」と「グリーンサポート」の活動を展開して現在に至ります。喪失からの再生の物語を自分の言葉で語ることができたのは、皆様のお力添えのおかげです。今年のゲスト、作家の星野智幸さんは、想像力の飛翔に圧倒される現代文学の書き手として活躍しておられます。グリーンケア研究所長の島菌進先生や、批評家の若松英輔さんの書評でも絶賛されている星野さんですが、私が特に印象深かったのはホームレスの人たちが書いた文学作品を対象とした「路上文学賞」を立ち上げた時の言葉です。

文学作品とは、その人の存在の核となる部分を理解し合う深いレベルで、言葉によって人と交わるもの、と定義した星野さん。一般に流通する「ホームレスのイメージ」を裏切らない物語、ではなく、どこまで他人の顔色をうかがわずに言葉を発することができたか、を審査の基準として挙げたのです。

大きな悲しみを受けた人が、社会やメディアの創る大きな物語にとらわれることなく、自分自身の物語を紡ぐのがいかに難しいか、を実感している私にとって、星野さんの視点は新鮮に映りました。魂の底から感じたその人自身の言葉が光を宿す時に悲しみは生きる力に変わるのです。「沈黙」も雄弁な言葉であることを知ってもなお、沈黙を強いるメカニズムに抗って発される言葉の力。皆様の心に響くお話が聞けると思います。

なお、第一部では、この会のプロトタイプとも言える小さな会を開く場となった信濃町真生会館の理事長、森一弘さん、またグリーンケアの集いを通して世田谷で御支援頂いている北鳥山の存明寺住職の酒井義一さんからもお言葉を賜ります。悼む思いがいのちをつなぐ・・・今年もぜひこの会にお越し下さい。
(ミシュカの森主宰 入江 杏)

◇ケアと公共のセミナー（第3回）のご案内◇

介護があぶない！

～これ以上の介護保険改悪の動きを止めさせよう！～

あなたは、ある程度の経済的な備えをしておけば、公的な介護が受けられると思っていませんか？介護離職が話題になっていますが、他人ごとではありません。あなただって、まともな介護が受けられるかどうかわかりません。

日本に公的な介護制度が導入されてから、19年。介護制度は、介護保険法が改定されるたびに、範囲を縮小され、改悪されて、崩壊しつつあります。

最大の問題は、ヘルパーや介護士など介護を担当する人たちが、肉体的にも感情面でも、かなりの過重、過密な労働をこなしているのに、極めて低賃金であるということです。折角若い人が情熱をもって介護の仕事についても、結婚するために退職するなど、介護に携わる人の退職と高齢化が進んでいます。このままでは、日本の介護制度は、人材面から崩壊してしまいます。

高いお金を積んで、親を介護付きの住宅に入居させても、褥瘡だらけになっている話を聞いたことはありませんか？これ以上の介護制度改悪を許せば、あなたが受けられる介護は、どうなっているのでしょうか？しっかりと現状を聴いて、考えてみませんか？

【日時】 12月4日(日)16:30～18:30 ★場所は上智大学ではないのでご注意ください。

【場所】 真生会館 地下ホール (JR 信濃町駅 駅前・改札を出て、切符売り場に沿って右に歩く。

駅を出て右を見ると、目の前です) <http://www.catholic-shinseikaikan.or.jp/access>

【講師】 小島 美里さん(元新座市市議、暮らしネット えん 代表理事) <http://npoenn.com/>

【参加費】 1000円 ☆どなたでも参加できます。事前申込は、不要です。

☆終了後、講師を囲んで懇親会を予定しています。各自が飲食された分をお支払いいただきます。

【主催】 ベグライテン HP <http://begleiten.org/> FB <https://www.facebook.com/begleiten2/>

ミシュカの森 FB <https://www.facebook.com/mforest>

【共催】 上智大学哲学科 【問合せ】090-9146-6667(関根) ・ ANA71805@nifty.com(入江)

★★2016年開催の秋の講演会・勉強会の報告と感想★★

◇ベグライテン 15周年記念特別講演会 の報告◇

ケアと公共を考えるー隔たりと橋渡し

島菌進先生（東京大学名誉教授、上智大学大学院特任教授）をお迎えして

【日時】10月2日(日) 14:00~16:30 14:00~16:30 【場所】上智大学 四谷校舎 3号館 1F 123 教室

【参加費】1,000 円（学生、生保・障害者 500 円）

【講師より一言】多くの人が関心をもち、社会的な対立に関わるような事柄について、発言し行動しようとする、おのずから明晰で説得力のある言葉が必要とされる。公共的な討議にのるような言葉だ。哲学や社会科学の概念なども必要となり、基礎知識がないと理解しにくいような言い方も避けられない。若い頃、そんな言葉に親しむようになり、そうした表現領域の習得に熱を入れた時期があった。だが、やがてそれでは何か足りないと思うようになった。

生活の現場で苦楽をともにしながら経験され、語られている言葉の水準と関連づけることも必要である。そこで、宗教学や民俗学にひかれ、フィールドワークに基づく研究をするようになった。だが、それも外から観察するという姿勢が中心だったが、だんだんケアの現場になかば参加することまで含むようになった。自分の学問の経験から「ケアと公共」の隔たりと橋渡しについて、考えてみたい。

【主催】ベグライテン ミシュカの森 【共催】上智大学哲学科

ベグライテン 15周年記念特別例会ご参加ありがとうございました。島菌先生による「ケアと公共を考える・隔たりと橋渡し」のご講演と、それに先立つ大橋容一郎先生のお話は大変深く、この時代のうねりの中で深く心に刻むべき内容でした。代表世話人関根和彦さんがお人柄を偲ばせる語りで幕を開けた昨日ですが、懇親会の場では、当初からの会員の音楽療法士の方からのシェアがあり、10代から80代までの車座の話の輪が広がりました。ありがとうございました。

島菌先生のご講演の内容の後半は、「檜山節考」を巡るビブリオセラピーというべき「死生観を捉え直す」感動的な語り。

前半にも大切な考察があり、「公共空間を支える社会関係資本という視点」です。社会関係資本の多様な形態の中から二つを挙げ、「結束型」（信頼の増大・互酬性の安定・連帯の強化）と「橋渡し型」（外部資源との連携・情報伝播の有益性）とを比較分類されました。ケアの力の源泉、モチベーションの考察とともに社会資本への視点、大変参考になりました。

◇ベグライテン 15周年記念特別講演会 に参加して◇

社会関係資本という言葉はご存知でしょうか。教会など、相互信頼、誠実な人間関係の育つ交流が継続的に促される団体または組織などを指しています。米国の発展の礎として、意義と歴史的変遷に着目し分析を行ったのが、米国の社会学者、ロバート・パットナムです。数十年前から安定的な社会の持続的発展を支える役割を果たしてきたことは、ご存じの方も多いことでしょう。近年の傾向とし

てその退潮が懸念、指摘されています。翻って日本の近年の状況は、いかがでしょうか。日本の伝統的宗教観は、例えば、姥捨伝説に基づき小説化された「檜山節考」にあるように、家族互惠を基調とする意識、永遠なる存在に向けて自己の生涯を昇華し、ある種の神のような立場から家族の幸福を守る、守り育てることを目指すもの。近年、日本でも価値観の大きな揺らぎを経験しました。阪神淡路・東日本の二度の大震災、そして福島原子力発電所の事故。大きなうねりの中で私たちの基軸として今後将来の世代に手渡してゆくべき哲学とは何でしょうか。

上智大学グリーンケア研究所は、臨床宗教士の養成に3年間尽力してきました。今年から各地の病院などで死への準備をサポートする実際の活動が始まりました。一人ひとり異なる宗教的バックグラウンドに即して死を旅立ちととらえ、どこに行くことが幸せなのかそこに向かう過程はいかにイメージされたら幸福感があり、満足のゆくものになるのか、等々、人が最善の形で死を受容し、生を充足して、最後に大事な感謝の気持ちをご家族に伝えられるよう、お手伝いしています。会の終わりの質疑応答の時間には、実際に役割を担っていらっしゃる僧侶の方もご参加くださり、有意義なご意見などを伺うことができました。グリーンケアの研究の更なるご発展が期待されます。(初海 浩子さん)

★★★ベグライテン・ケアと公共のセミナーの報告★★★

◇第1回「ホームレス問題とハウジングファースト」◇

【日時】9月15日(木)18:30-20:30 【参加費】千円(学生/障害・生保者は五百円)

【場所】東京法律事務所1F会議室(四ツ谷駅前) 【テーマ】ホームレス問題とハウジングファースト

【講師】小林美穂子さん(認定NPO法人自立生活サポートセンターもやいスタッフ)

こもれびコーヒーコーディネーター、一般社団法人つくろい東京ファンドスタッフ)

【報告】路上生活者は毎年減少していますが、社会保障が整っているはずの日本で、なぜ現在も路上で生活をする人たちがいるのか。なくならない路上死をなくすために必要とされるサポートは?もやいの相談現場で、シェルターを運営するつくろい東京ファンドで見えてきた、現在のホームレス問題についてお話を聞きました。

◇第2回「最悪の選択? ~2016年アメリカ大統領選挙を考える~」◇

【日時】10月30日(日) 14:00~16:30 【場所】上智大学 1-204

【講師】土田宏先生(城西国際大学国際人文学部教授・上智大学講師)

【タイトル】「最悪の選択? ~2016年アメリカ大統領選挙を考える~」

米国では、1970年代以後格差が拡大して来っており、中間所得層の分解が進み、低所得白人層に不満が蓄積している。1990年代以後この傾向が加速してきていたが、特に最近、先住民、黒人、中国人、日本人、ヒスパニックなどの人口が、総数で、白人人口を上回りつつあり、有色、異文化に対する無理解、恐怖が増幅されつつある。

低所得白人層のエスタブリッシュメンに対する反発、メキシコ経由の不法移民に対する反発、オバマの健康保険政策に対する反発など生活に根差した現実主義的な反発が、ティーパーティー運動を生み、今トランプ現象を生んでいる。

一方同じこの層の理想主義的傾向の人々のエスタブリッシュメンに対する反発、不法移民を受け入れ多様性を認める運動、健康保険など格差是正を支持する人々が、サンダース現象を生んだ。

トランプの選挙資金は、5ドル、10ドルと言った一般庶民からの献金が多いが、クリントンは大企業からの大口献金が目立ち、一等地に3000人は入れるような庭を持つ豪邸を持っているので、エスタブリッシュメントの代表者とみなされ、双方から反発され、苦戦の原因になっている。

1960年代以後の歴史から説き起こされ、クリントン苦戦の背景がよくわかるセミナーでした。

★★★ 9月・10月の憲法カフェの報告★★★

◇いのち・くらしカフェ@「奥沢るりあん」の報告◇

【開催日時】 9月18日(日)2時～4時 【場所】 奥沢るりあん 【参加費】 500円

【講師】 高岡直子先生 (大田病院内科医)

医療と福祉の専門家の人たち中心になっていのち・くらし、今回のカフェでは「ワークライフバランス」で働き方や生活、介護、保育を考えます。場所は世田谷区の住宅街にあるスペース「奥沢るりあん」。「花の谷クリニック」の伊藤真美さんや「特定非営利活動法人暮らしネット・えん」の小島美里さんもお越しくださいました。

◇いのち暮らしカフェ@横浜の報告◇

【開催日時】 10月21日(金) 19:00～21:00 【場所】 神奈川県民センター 307号会議室

【講師】 藤原るかさん「より良い介護のために」

主に在宅介護について説明がありました。

- ・介護保険開始時と比べ、利用者が増えたこともあり、生活支援の時間が短くなっている。90分→60分→45分。依頼される仕事量はあまり減らないので、特急、手抜きがちになる。
- ・依頼者からの苦情も出るので、やりがいを感じられない仕事になっている。
- ・移動は、何分かつかっても、50円しかつかない。このため、バイクで、トップスピードで走っている。
- ・かなり過重労働であり、時間的にもタイトで、昼食抜きになることが多い。
- ・にもかかわらず、きわめて低賃金。1日9時間労働で、月収11万円弱、年収120万円という水準。
- ・だから、若い人が入っても、すぐに辞めてしまう。ヘルパーの高齢化が進んでいる。
- ・ヘルパー同士の話し合い、情報交換も減った。顧客が、ヘルパーごと引き抜かれるのを恐れていること。
- ・イオン、セブンイレブン、東急、京急などが中心になり、生活支援パックというのができたが、パートとアルバイトが中心で、質的に問題がある。

○質疑を通じて、このままでは、日本の介護制度は人材面から崩壊してしまうこと、大企業、多国籍企業本位のアベノミクスを止め、医療・介護・福祉本位の政策に転換する必要があることが良く理解できました。憲法9条改正よりも、25条の完全実施の方が先だということで、一致しました。

★★★ケアの施設訪問の報告★★★

【暮らしネット・えん訪問】暮らしネット・えんは、「障がいがあっても、高齢者になっても地域で共に」を掲げて埼玉県新座市で活動している NPO 法人。高齢化が進行する社会で、介護は突然やってくる身近な問題であり、これを知り準備することはライフラインの確保につながります。自分、家族、地域に安心の輪を広げる活動を展開している小島さんから直接お話を聞き介護や活動の現場を見て介護・福祉・安心を感じるひと時をともにしました。下記の要領で訪問したことをご報告します。

【日時】 2016年10月23日(日曜日) 14:00~16:30 【参加費】 500円 【定員】 20名

【申込み先】 樋口恵理 eriorange8050@ezweb.ne.jp

【集合場所】 西武池袋線 東久留米駅 東口 13時45分集合 タクシーに乗合で行きます。

【訪問場所】 グループホーム えん 〒352-0033 埼玉県新座市石神 2-1-4 048-480-4150

交通アクセス 最寄りの駅は 西武池袋線 ひばりが丘駅

池袋から急行で約20分 地下鉄大江戸線の場合 練馬駅乗り換えで西武池袋線

西武池袋線ひばりが丘駅下車・北口よりバス(朝霞台行き・福祉センター行き・志木駅行きのいずれか)

西武バス 貝沼下車徒歩10分(堀之内病院の近くです)

◇えん訪問記◇

先週土曜日、埼玉県新座市石神にあります「えん」訪問会に参加させて頂きました。

地域に生活する1人の方のニーズを汲むボランティア活動に始まり、現在はヘルパー派遣、デイサービス、小規模多機能住宅を2つ運営し、配食サービス事業もスタートされている社会福祉法人です。

60歳以上の10名の方の住まい、グループリビング最初にお通し頂きました。共用部分は以下のようです。

- ・採光部分が広々と設けられ、開放的な明るいやつたりしたLDK
- ・来客用和室
- ・目の前に緑の木々が映える屋外デッキが隣接し、直に屋外に行き来できるやつたりした複数名用浴室
- ・1人用浴室、シャワースペース
- ・アトリエとして地域の方も画廊などに利用できる半独立のスペース

プライベートスペース(個室)は約50平米、キッチンと機能性に配慮されたトイレ・洗面付きです。

建物の南側の武蔵野の雑木林・竹林の緑陰、緑風を取り込み(落葉し冬の間、陽射しが入り暖かです)自然の恵みが活かされた設計には、行き届いた配慮を感じられます。

両方のグループホームも拝見させて頂きました。日本家屋のたたずまいの良さに心がゆるりとして、幼い頃の思い出が蘇えるのを覚えつつ、帰宅の途につかせて頂きました。

「明日の友」2015年218号に記事が掲載されていらっしゃいますので、御興味のおありの方は是非ご参照くださいませ。(初海 浩子さん)

★★ その他のカレンダー★★

◇東京弁護士会シンポジウム「女性参政権実現 70 年」◇

今年、女性参政権実現 70 年の節目の年です。この年に、これまでの女性参政権獲得運動を振り返り、女性参政権が実現したことの意味を確認したいと思います。そして、選挙権を行使した人のそのときの感動を聞き、私たちにとって当たり前のものである選挙権をもう一度かみしめたいと思います。また、参政権が実現したものの、日本の国会の女性議員割合は、11.6%で、世界ランキングの順位は 151 位にとどまっている現状を改善するために、何が必要なのか、皆さんと考えたいとおもいます。

【日時】 2016 年 11 月 16 日（水）午後 6 時～（開場午後 5 時 30 分）

【場所】 弁護士会館 2 階講堂クレオ BC 【参加費】 無料・予約不要

【内容】 第 1 部 基調講演「女性参政権獲得運動の歴史」（仮題）国武雅子さん（長崎純心大学非常勤講師）

第 2 部 パネルディスカッション 下記パネリスト（50 音順）

国武雅子さん（長崎純心大学非常勤講師）

清水鳩子さん（主婦会館理事長・元主婦連合会会長）

千葉景子さん（神奈川県弁護士会会員・元法務大臣）

コーディネーター 西田美樹（東京弁護士会憲法問題対策センター副委員長）

棚橋桂介（東京弁護士会憲法問題対策センター副委員長）

【主催】 東京弁護士会（共催 ※予定） 第一東京弁護士会 第二東京弁護士会

【問合せ】 東京弁護士会人権課 TEL：03-3581-2205（一時託児所の設置あり・要申込み）

◇UT-CAS 学習会「強行採決から 1 年～市民連合から野党共闘、そして憲法は今」◇

昨年 9 月 19 日、内容としても違憲であり、手続きとしても多くの問題を孕んだ安全保障法案が「成立」しました。しかしそれから 1 年、私たちの運動は、弱まるどころから、全国から多くの人々が立ち上がり、声をあげ続け、現在の政治と憲法についての思考と行動が続いています。最も象徴的なものが、安保法制の廃止と立憲主義の回復を求めて結集した、市民連合の成立であり、市民連合をはじめとする全国の社会運動の要請を受けて成立した野党共闘の枠組みだと言えるのではないのでしょうか。

本学習会では、闘う政治学者として、全国を飛び回りながら、現在の政治や憲法について講演・活動をなさっている山口二郎先生をお呼びして、強行採決から 1 年、どのように社会や政治についての変容が生じ、そして現在、どのような憲法・安全保障の問題が私たちに突き付けられているのかについて議論したいと思います。そして、みなさんと一緒に、私たちの生きる時代を検討し、その未来を考えていきたいと思っています。

【日時】 2016 年 11 月 18 日（金）18:30 開場 19:00 開演

【会場】 本郷キャンパスを予定 http://www.u-tokyo.ac.jp/campusmap/cam01_08_02_j.html

（東京メトロ丸の内線「本郷三丁目」駅より徒歩 8 分／都営大江戸線「本郷三丁目」駅より徒歩 6 分）

詳しい会場場所は上記 HP をご覧ください。

【講師】 山口二郎（法政大学法学部教授）

【講師プロフィール】 1958 年生まれ、東京大学法学部卒業。東京大学法学部助手、北海道大学助教授・

教授を経て、2014年より法政大学法学部教授。日本政治学会元理事長。『大蔵官僚支配の終焉』『ポスト戦後政治への対抗軸』をはじめとして、多くの単著・共著・編著があり、市民向けの政治学入門書も多い。安保法制に関しても、衆議院平和安全法制特別委員会での公聴人を務めるのみならず、国会前抗議／多くの安保法制反対のスピーチに登壇する。

【主催】 東京大学安全保障関連法に反対する学者の会

◇戦争させない・9条壊すな！総がかり行動実行委員会◇

【日時】 11月11日（金） a m 7 : 4 5 ~ 官邸前緊急行動 【場所】 首相官邸前

自衛隊は南スーダンからただちに撤退を！戦争法の発動と「新任務付与」に反対！殺すな！殺されるな！

【日時】 11月19日（土） 14時～ 【場所】 衆議院第2議員会館前～国会図書館前

安倍政権の暴走止めよう！自衛隊は戦地に行くな！11.19 総がかり行動（仮称）

【主催】 戦争させない・9条壊すな！総がかり行動実行委員会

◇立憲デモクラシー講座◇

10月より始まった立憲デモクラシー講座第二期の講座が追加されることになりました。第4回から現在の立教大学から、会場が変更となり、早稲田大学早稲田キャンパス3号館となります。

【第3回までの会場】 立教大学池袋キャンパス8号館2階8202教室（定員300名）

【日程と講師・タイトル】 開場18時20分、開会18時40分～

●第2回 11月18日（金）

木村草太（首都大学東京教授・憲法学）「泣いた赤鬼から考える辺野古訴訟」

●第3回 12月16日（金）

五野井郁夫（高千穂大学教授・政治学）「立憲主義、民主主義、政治参加」

【第4回からの会場】 早稲田大学早稲田キャンパス3号館501教室（定員370名）

●第4回 2017年1月13日（金） 18:30～20:30

山口二郎（法政大学・政治学）

◆入場無料、各回先着順・どなたでもご受講になれます。ふるってご参加ください。

事前申込みはありません。直接会場へお越しください。各回、定員になりました時点で締切とさせていただきます。会場・時間の変更、講師交代等がある場合がございます。

最新の情報はホームページやツイッターでご確認ください。

◇ソーシャル・ジャスティス基金(SJF)アドボカシーカフェ◇

3.11 後 の子どもと健康～学校と保健室は何ができるか

「3.11を体験した私たちが、これまでと同じような子どもへの関わりでいいの？」

これは、宮城県のある中学校の養護教諭の言葉です。2011年3月11日、東京電力福島第一原発事故が起き、東北から関東の幅広い地域に放射性物質が拡散しました。低線量の放射線被ばくによる健康への影響は看過されがちですが、チェルノブイリの事例が示すように、長い年月が経過した後にも顕在化

します。とくに子どもに現れるさまざまな変調は、いち早く察知し対処する必要があります。それぞれの地域や学校では放射線被ばくから子どもを守るために独自の取り組みがなされているようですが、普遍化はしていません。

宮城県の大崎地区には、「3.11 後」を意識して自分たちができることは何かと探りながら、子どもたちの健康状態を回復させ、被災した子どもたちを守る取り組みをしている養護教諭たちがいます。子どもの「健康観察」「健康診断」「救急処置」にはどのような視点が必要だと捉えられているのでしょうか。子どもや保護者との対話ツールとして「保健だより」をどのように活用しているのでしょうか。保健室という場をどのように活用しているのでしょうか。

今回ゲストに大崎市立の小学校の養護教諭、松田智恵子さんをお迎えし、みなさんの地域や学校で子どもたちの健康を守っていくためにどう連携したらよいのか一緒に考えます。原発事故から5年経ち、まさにこれから。実践例から学び対話する場へぜひご参加ください。

【日時】 11月19日(土) 13:00~15:30(開場 12:30)

【会場】 見樹院 2階 講堂 文京区小石川 3-4-14 (地図 <http://www.nam-mind.jp/access.htm>)

(丸ノ内線/南北線・後楽園駅 徒歩 15分、三田線/大江戸線・春日駅 徒歩 15分)

【参加費】 一般 1,000円/学生 500円 当日受付にてお支払ください。

【講師】 大谷 尚子さん(養護実践研究センター代表、元聖母大学教授、茨城大学名誉教授)

東京大学医学部保健学科卒業。日本養護教諭教育学会、日本学校健康相談学会などの設立にかかわる。長年、養護教諭の養成にたずさわり、「養護学」の構築に力を尽くしてきた。著書に『「あなたが大事」の伝えかた—保健室と養護学からのヒント』(2016年4月)ほか多数

【ゲスト】 松田 智恵子さん

1984年より宮城県公立小中学校養護教諭。医療被曝やチェリノブイリ事故の健康影響について不安を感じ、啓発カレンダーや関連書籍を提示するなどの保健室経営を行っていた。

2011年の福島第一原発事故後、居住地や職場地域での汚染の現実に直面し、児童や保護者への情報提供の必要性を痛感する。地域の教育研修活動で放射能問題をテーマにした講演会や学習会の開催と、市民活動に参加し地域の除染や食品汚染測定、健康調査等の課題の学習や交流に取り組み、保健だよりや健康相談を通しての実践指導への活用を模索中。

【主催】 ソーシャル・ジャスティス基金 (SJF)

新宿区歌舞伎町 2-19-13 ASK ビル 501 認定 NPO 法人まちぼっと

Tel 03-5941-7948、Fax 03-3200-9250、ホームページ <http://socialjustice.jp/>

【お申し込み】 <https://socialjustice.jp/20161119.html> より、事前にご登録ください。

◇ホスピスセミナー 在宅緩和ケア◇

ホスピス緩和ケアに関連したテーマで外部から講師を招き、主に医療・介護福祉関係者を対象に開催しています。今回は11月12日(土)、「在宅緩和ケア~住み慣れた地域で生きて、旅立つために~」をテーマに開催いたします。

【日時】 2016年11月12日(土) 13時~16時

【講師】 奥野 滋子先生

1960年富山県生まれ。金沢医科大学卒業。順天堂大学医学部麻酔科学講座で麻酔・痛み治療に従事。

2000年より緩和ケア医に転向。神奈川県立がんセンター、順天堂医院緩和ケアセンターを経て、現在

医療法人社団若林会湘南中央病院在宅診療部長として、臨床と教育の両面で緩和ケアに携わっている。
東洋英和女学院大学大学院人間科学研究科（宗教学分野）修士。著書に『一人で死ぬのだって大丈夫』
（朝日新聞出版）他。

- 【対象】 医師・看護師・薬剤師・栄養士・ソーシャルワーカー・介護福祉士など緩和ケアに関心のある方
【場所】 ピースハウスホスピス 2階視聴覚室 足柄郡中井町井ノ口1000-1
【参加費】 一般 3500円 教育研究所会員 3000円 【定員】 60名
【申込方法】 参加をご希望の方は、PCよりサイトの参加申込みフォームに記入し、お申し込みいただくか、
申込書に必要事項をご記入の上、郵送かファックスにてお送り下さい。折り返し受付証をお送りいた
します。なお、参加当日は昼食をご持参下さい。近隣にコンビニなどはありません。
【申込期限】 2016年11月7日（月）定員になり次第締切になります
【問い合わせ先】 〒259-0151 神奈川県足柄上郡中井町井ノ口1000-1
ピースハウスホスピス教育研究所「ホスピス緩和ケア講座」係
TEL：0465-81-8904 FAX：0465-81-5521
【主催】 一般社団法人ライフプランニングセンター ピースホスピス教育研究所

◇東京介護福祉士会 研修講座 「介護過程の展開を深く理解する」◇

- 【日時】 2016年11月23日（水・祝） 9:30～16:30
【受講料】 会員 4,300円 / 非会員 6,200円 / 新卒者会員 1,000円 / 学生 500円
【講座内容】 生活支援における介護過程の位置づけ / 介護過程の展開の実践等
【講師】 聖徳大学短期大学部 教授 小櫃芳江氏 / 文京学院大学 准教授 奈良環氏
【場所】 北とぴあ 7階 第2研修室 東京都北区王子1-11-1 MAP
【定員】 80名 （定員になり次第予告なく終了する場合がございます。）
【主催】 公益社団法人 東京都介護福祉士会 <http://www.tokaigo.jp/training/>
江東区猿江1-3-7 パーク・ノヴァ猿江恩賜公園102. メール info@tokaigo.jp
TEL 03-5624-2821 / FAX 03-5624-9650. / 受付時間 月～金 9時～18時.

◇池内 了氏 講演会 大学で軍事研究!? - 軍学共同と大学における研究教育◇

- 【日時】 11月23日（水）午後6時半から、【場所】 早稲田大学 早稲田キャンパス 8号館 B107教室
戦後日本の科学者は「戦争を目的とする科学の研究には絶対に従わない」と決意し、日本学術会議も声
明として出しています（1950年、1967年）。しかし、昨年来、防衛省の研究助成が始まっています。池内氏
は、「軍学共同反対」を貫かれ、近著に「科学者と戦争」（岩波新書）や「兵器と大学」（岩波ブックレット）
があり、名古屋大学名誉教授、早稲田大学元 特任教授で、おおもとの「九条の会」の世話人のお一人です。
【主催】 早稲田大学教職員9条の会 （設立九周年記念集会として）
【共催】 安全保障関連法の廃止を求める早稲田大学有志の会、早稲田大学教員組合
【後援】 早稲田大学憲法懇話会

◇エンドオブライフ・ケア協会 特別セミナー◇

「人生の終わり、一緒に考えませんか？」

【開催日】2016年11月23日(水) 13:30~16:30 (13:00開場) 【定員】270名(残席少)

【会場】発明会館(虎ノ門) 【対象者】医療・介護従事者, 一般の方

【参加費】会員の方 2000円, 非会員の方 3000円

◇連続企画第二弾 健康格差社会にどう向き合うか◇

憲法が危ない! 健康も危ない!

「危ないのは憲法だけじゃない!」の連続企画の第二弾です。「介護保険も危ない!」に続き、私たちの健康や暮らしに影響する重要な課題を連続企画として取り上げていきます。日本の社会保障が急速に変わろうとしており、私たちのいのちと暮らしを脅かしています。その問題点を学び、望ましい安心の社会保障制度のあり方を、市民の皆さんと医療・介護・福祉関係者がつどい、共に考えたいと思います。多くの皆様のご参加をお待ちしています。

【日時】平成28年11月26日(土) 14:00~17:00

【参加費】1000円(学生無料)(事前申込みは不要です)

【場所】日本赤十字看護大学 210教室 (東京都渋谷区広尾4丁目1番3号)

【アクセス】いずれも日赤医療センター行終点下車

- ・東京メトロ日比谷線 広尾駅から徒歩15分
- ・渋谷駅東口から都営バス「学03」系統 ・恵比寿駅西口から都営バス「学06」系統

【講師と演題】近藤克則さん 健康格差になぜ取り組むべきか□

橋本英樹さん 健康問題に取り組む上でなぜ政治が大切か□

【講師プロフィール】

★近藤克則さん 1983年千葉大学医学部卒業。東京大学医学部附属病院リハビリテーション部医員、船橋二和病院リハビリテーション科科長、2000-2001年 University of Kent at Canterbury (イギリス) 客員研究員、日本福祉大学教授を経て、2014年より千葉大学予防医学センター教授。国立長寿医療研究センター老年学・社会科学研究センター老年学評価研究部長。著書に「『医療費抑制の時代』を超えて」「『医療クライシス』を超えて」「『健康格差社会』への処方箋」(近刊)(医学書院)など。「健康格差社会一何が心と健康を蝕むのか」(医学書院)で社会政策学会賞受賞。

★橋本英樹さん 1988年東京大学医学部医学科卒業。内科研修・循環器内科勤務を経て、1999年帝京大学医学部衛生学公衆衛生学講師、同准教授を経て、2004年東京大学医学部附属病院特任教授(医療経営政策学寄付講座)。2007年東京大学大学院公共健康医学専攻教授(臨床疫学・経済学分野)。2012年同教授(保健社会行動学分野)。医学博士(東京大学・論文博士)公衆衛生学博士(Harvard School of Public Health)著書に「社会と健康」川上憲人・橋本英樹・近藤尚己編著(東京大学出版会)「医療経済学講義」橋本英樹・泉田信之編著(東京大学出版会)

「医療コミュニケーション」藤崎和彦・橋本英樹編著（篠原出版新社）など。

戦後長寿社会を実現し、世界の注目を集めてきた日本。その健康社会の基盤が今、危機に瀕しています。私たちは医療・介護・福祉の現場で、社会的な格差によって健康が阻まれる場面をしばしば目にするようになってきました。今回の学習会では社会的格差の健康への影響を研究し、健康を守るための提言を発信しているお二人の専門家をお招きしました。現場からの声も交えながら、格差がどのように健康を脅かすのか、健康を守るために健康を権利として位置づけ、社会のシステムを整えていくことの意義などを考えていきます。近藤克則さん・橋本英樹さんの講演のあと、司会に沢田貴志（港町診療所所長）さんを迎え、全体討論 15:30~16:50 の時間を取って、フロアの皆さんからご意見を頂きながら講師のお二人と議論を深めていきます。FAXでも、質問、ご意見をお寄せください。頂いたご質問のうち主だったものを、当日会場でのディスカッションに反映させていきたいと思ひます。

【主催】いのちと暮らしを脅かす安全保障関連法に反対する医療・介護・福祉関係者の会

HP: heiwa-inochi.sakuraweb.com/ FB: [facebook.com/inochi.and.kurashi/](https://www.facebook.com/inochi.and.kurashi/)

<お問い合わせ先>TEL: 090-3312-7607 FAX: 0470-44-5302

◇千葉いのちの電話 県民講座 ◇

その悩み ひとりで抱えていませんか? ” 困ったとき…身近にある支援 “

【日時】2016年11月27日(日) 13:30 ~ 16:00 (開場13:00)

【場所】館山市コミュニティセンター 【参加費】無料・先着順 【定員】150名

【講師】下園 壮太氏 NPO 法人メンタルレスキュー協会理事長

1959年鹿児島県生まれ。陸上自衛隊初の心理幹部として多数のカウンセリングを経験。

メンタルヘルス担当として、コーチング、関連ビデオを作成。300件以上の自殺・事故後の周囲の人々へのケアを行う。東日本大震災時は、現場で指揮官等への指導にあたる。2015年退職。メンタルレスキュー協会のインストラクターとして、惨事後の対処、自殺のインターベンションなどのクライシスカウンセリングに関するトレーニングを提供。皆さんにお伝えしているのは、すべて現場で試行錯誤し、クライアントから学び、自分で体系化、有効だったものです。

【問合せ/申込み】千葉いのちの電話事務局 (月~金/9:00~17:00)

・TELでの申込み 043-222-4322 ・FAXでの申込み 043-227-6911

お申し込みは電話・FAX・Eメール ll-chiba@chiba-inochi.jp で受け付けております。

●お名前●電話番号●参加人数をご連絡ください。

◇第11回 障害者支援委員会実践研究会(プラ研) 障害者支援委員会◇

障害者支援委員会では、障害福祉関係のさまざまな話題や学びたいテーマに関する研修を会員向けに開催しています。会員相互の情報交換や交流を図ることを目的とし、楽しく勉強できる会となるように工夫しています。今回は聖学院大学の木下大生先生をお迎えし、知的障害者の認知症についてお話しいただきます。近年、確実に増加しているにもかかわらず、その実態があまり知られていない知的障害者の認知症について、海外の知見、日本の現状と課題の詳細を学びます。ぜひご参加ください

【日時】2016年12月9日(金曜日) 19時00分~21時00分

- 【講師】木下大生氏（聖学院大学准教授） 【参加費】無料
【演題】知的障害者の認知症～障害者支援施設における現状と課題～
【会場】東洋大学白山キャンパス（2号館3階第1会議室）〒112-8606 東京都文京区白山5-28-20
【アクセス】都営三田線「白山」駅または南北線「本駒込」駅下車、徒歩6分 電話：03-3945-7224
【対象】東京社会福祉士会員およびテーマに関心のある方 【定員】45名
【申し込み方法】事前にメール tcsw_praken@yahoo.co.jp まで、
氏名、所属、メールアドレス、緊急連絡先、東京社会福祉士会の会員の有無を明記の上お申し込みください（担当幹事 中野、多和田）。
【問い合わせ】東洋大学ではなく上記メールの障害者支援委員会にお願いいたします

◇暮らしとこころの総合相談 ◇

弁護士、精神保健福祉士、臨床心理士が日頃の悩みの相談をお受け致します。

- 【実施日時】2016年12月10日（土）13時～17時 【相談料】無料
【事前予約】2016年11月15日～12月9日
TEL：045-211-7705（神奈川県弁護士会事務局） 平日9時～17時の間
※定員（先着12組）になり次第終了します。
※予約の際は「暮らしとこころの相談会」とお伝え下さい。 電話する
【場所】神奈川県弁護士会館 1階 〒231-0021 横浜市中区日本大通9
みなとみらい線日本大通り駅より徒歩1分 JR・横浜市営地下鉄関内駅より徒歩10分
【申し込み先・問合せ】神奈川県弁護士会 〒231-0021 横浜市中区日本大通9番地 TEL：045-211-7705

◇「戦争実感をもたない世代に戦争を始めとする歴史像をいかに育てるか」◇

～20世紀史理解度調査シンポジウム～のご案内

- 【日時】日時：2016年12月10日（土）14:00～17:00 【申し込み】URL：<http://unico.s1.weblife.me/sos/>
【費用】500円（高校生、青年、学生、院生、26歳未満は無料）
【場所】明治大学駿河台キャンパス 12号館10階2103教室
【対象】高校生、青年、大学生、留学生、大学院生、高校教員、大学教職員、市民
【提題者仮題】・佐貫 浩氏（法政大学教授）
～「教育の中立」を担保し、学生自らの価値形成と歴史像をいかに育てるか～
・斎藤 一晴氏（明治大学他非常勤講師）
～日中韓の共通した歴史像の形成のもとに国民的和解の道をいかに切り開くか～
・草川 剛人氏（帝京大学教授）
～戦争の実感を全くもたない世代に戦争を軸とする歴史像をいかに育てるか～
【主催】安保法案に反対するオール明治の会

◇ホスピスセミナー◇

「認知症のある高齢患者への緩和ケア—精神症状の評価とケアの実際—」

【日時】2016年12月10日(土)13時~16時

【講師】小川朝生先生(国立がん研究センター東病院 臨床開発センター精神腫瘍学開発分野 分野長)
2004年大阪大学大学院医学系研究科卒業。同年国立病院機構大阪医療センター神経科勤務。2007年国立がんセンター東病院精神腫瘍科医員。2009年同院臨床開発センター精神腫瘍学開発部所属。2013年度厚生労働科学研究費補助認知症対策総合研究事業に主任研究員として認知症の包括的支援プログラムの開発を担当。

【対象】医師・看護師・薬剤師・MSW・介護福祉士など緩和ケアに関心のある方

【場所】ピースハウスホスピス2階視聴覚室 足柄郡中井町井ノ口1000-1

【参加費】一般4500円 教育研究所会員4000円 【定員】60名

【申込方法】参加をご希望の方は、PCよりサイトの参加申込みフォームに記入し、お申し込みいただくか、申込書に必要事項をご記入の上、郵送かファックスにてお送り下さい。折り返し受付証をお送りいたします。なお、参加当日は昼食をご持参下さい。近隣にコンビニなどはありません。

【申込期限】12月5日が申込み期限となります。定員になり次第締切となります。

【問い合わせ先】〒259-0151 神奈川県足柄上郡中井町井ノ口1000-1

ピースハウスホスピス教育研究所「ホスピス緩和ケア講座」係

TEL:0465-81-8904 FAX:0465-81-5521

【主催】一般社団法人ライフプランニングセンター ピースホスピス教育研究所

◇生と死を考える会 第2回教養講座◇

自死と死生観～自死者たちが問うてくる今日的死生観

未曾有の高齢社会に突入した日本。経済的な繁栄を誇りながらも、老後の孤独感、医療不安、また若者たちの生きづらさ、自死、さまざまな分野でのハラスメントなど、表面的な明るさとは裏腹に生の闇が社会に潜んでいます。そのような状況のなかで、今日的な死生観を探る講座です。

【日時】2016年12月12日(月)19:00~20:30 【定員】先着20名

【講師】藤井忠幸氏(本会副理事長 元内閣府自殺対策検討委員他)

【会場】東京YWCA会館 2F 215号室 〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台1-8-11

【参加費】会員・学生1,000円 一般1,500円 【対象】関心のある方どなたでも。

【申込方法】下記本会宛に、メール・FAX・電話(火・金午後)にて、連絡先を明記してお申込みください。

「NPO法人 生と死を考える会」〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台1-8-11

東京YWCA会館2階214号室 TEL 03-5577-3935 (火・金午後)

FAX 03-5577-3934 メール:koenkai@seitosi.org

◇生と死を考える会 望年会のお知らせ◇

【日時】2016年12月10日(土) 18:00~20:00

【場所】主婦会館プラザエフ 8F パンジー 【参加費】4,000円 (要事前申し込み)

【申し込み】“望”年会は事前の申し込みが必要になります。申込期限は12月6日の17:00までとなります。

【問合せ・主催】東京・生と死を考える会 事務局 TEL: 03-3357-5780 / FAX: 03-3357-5793

住所: 〒160-0008 東京都新宿区三栄町10-1 橋爪ビル2階

★★★編集後記★★★講演会や講座、イベントの情報をお持ちの方はお寄せ下さい。なお「カレンダー」に掲載の一部の催しについては、お出かけの前に、主催団体のHP、FB、Twなどで調べてからお出かけください。書籍や映画などの推薦、投稿も大歓迎です。頂いた記事を並べているだけで、ミシュカの森関連記事以外は、皆様からの投稿が中心の会報です。

それにしても霜月に入って急に寒くなりました。津軽、南部、下北を回ってきたのですが、自死やいじめに悩む方々との出会いがありました。

いちいの実(別称「おんこの実」)を皆様は召し上がったことありますか?緑色の種は毒があるようですが、小さくて可愛い実は、真っ赤で甘い味がします。お子様を自死でなくされたお母様が、おんこの実をつまんで食べて・・・お子様の思い出を語られました、津軽の旅での出来事です。

「おんこの実 食みたる悲母の 火種たれ」 杏

小さな赤い実が、心の中に悲しみの熾火となって、燃えているのを感じた瞬間でした。悲しみが愛しみの焰と変わることを祈りつつ、お母さんの横顔を眺めました。皆様、くれぐれもご自愛下さい。

(編集担当:「ミシュカの森」入江杏)



会報に関する連絡先: メールで入江まで ANA71805@nifty.com

電話の場合: 関根まで 090-9146-6667